

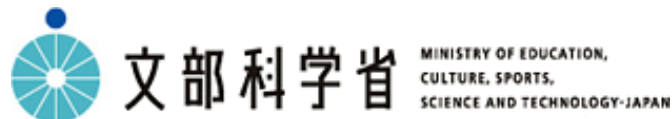


OECDJapanセミナー

OECD東北スクールの実践について

福島大学 三浦浩喜

(OECD東北スクール統括責任者)



OECD東北スクール

2011年4月 グリア事務総長来日、復興への協力を表明

直後より、OECD内において教育復興に関わる調査、およびプロジェクトの立案

福島大学において復興支援ボランティア開始

9月 福島大学において「リスクマネジメント教育」を立案

11月 OECD教育局と福島大学が接触、福島大学が協力を表明

2012年11月 ハイレベル円卓会議(文部科学省、外務省、OECD日本政府代表部、福島大学)発足、福島大学が正式に主催者となる

OECD東北スクールの目的

1. 被災地復興の担い手に必要な「21世紀型キーコンピテンシー」を育てる。
2. 主体性を発揮するためのプロジェクト学習を行い、教育改革モデルをつくる。
3. 教育改革のための地域と学校、産官学、国内外の連携を進める。



21世紀を生き抜くために必要なスキル

リーダーシップ

建設的批判思考

協調性

国際性

企画力

実行力

創造力

交渉力

など

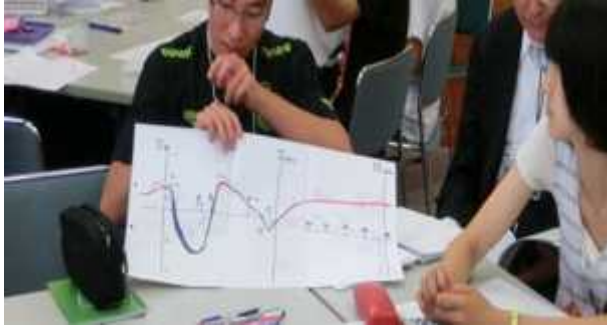
+



震災復興期の緊急性・柔軟性

震災を乗り越えてきた力

OECD東北スクールの基本方針



イニシアティブからシステムへ

- 長期的・継続的な取り組み
- システムの創造へ



自助努力の継続性

- 支援からの自立
- 被災者自らが環境づくり



教育的実験としての位置づけ

- イノベーションの創出
- チャレンジ

参加地域

●福島・宮城・岩手の三県から約100名の被災した中高生が参加。参加者は固定し、2年半にわたって継続的な活動を行う。

●参加者はチームを作り、引率者(ローカルリーダー)の指導を受ける

●それぞれの出身地域の復興を生徒の視点から考える。

●学生・院生のサポートチーム



OECD東北スクールの活動

●**集中スクール**.....5回の集中ワークショップ(約1週間)を開催し、多彩な講師による体験活動や熟議を行う

●**地域スクール**.....各地域ごとに各地の状況に応じて、若者からの地域復興を企画・実行する地域スクールを行う

●**テーマ別活動**.....パリでのイベントを成功させるために「シナリオ」「産官学連携」「コミュニケーション・PR」「セルフドキュメンタリー」の各活動を行う

●**2014年東北復興祭〈環〉**.....東北の復興を世界にアピールするプロジェクトの最終ゴール





プロジェクト学習のゴール

2014年8月、フランス・パリで東北の魅力をアピールするためのイベント
東北復幸祭〈環〉を自ら企画・実行

開催期日：**2014年8月30・31日**

開催場所：エッフェル塔下に広がる
シャン・ド・マルス公園

フランスへの渡航予定人数は生徒約100名、大人50名。

イベントは最終ゴールは、一連の活動をとおして、地域・日本・世界のために動けるイノベーターとなること



**第1回集中スクールin いわき
(2012.3.25-29)**

3日目、Gad Weil氏のワークショップ
チーム「環」の誕生



team
We are OECD Tohoku School students.
We are more than our past,
more than our traditions,
at a new frontier!